

外来診療担当医師							
内 科	午前	月	火	水	木	金	土
		東出	木村	東出	垣内	川人 (糖尿病外来)	亀井 (第1週目) 多羅澤 (第2週目)
		亀井 (循環器病外来)	河本	木村 (消化器病外来)	宮地	伊林 (漢方外来)	木村 (第3週目) 宮地 (第4週目) 河本 (第5週目)
	午後	伊林 (漢方外来)	宮坂 (漢方外来)	河本	多羅澤 (胃瘻・嚥下障害外来)	井戸川	
		宮地	川人 (アレルギー・ リウマチ外来)	伊林 (漢方外来)	河本	亀井	
		伊林 (漢方外来)		亀井		越前 (第2金曜日のみ)	

精神科		月	火	水	木	金	土
	午前	片村	片村	片村	片村 (物忘れ外来)	片村	休診
	午後	片村	休診	片村	休診	片村	

診察受付時間		休診日	診療科目
平 日	午前 9:00～12:00 午後13:30～17:00	日曜・祝日・年末年始	●内科(消化器内科・老年内科・漢方内科) ●精神科 ●放射線診断科 ●リハビリテーション科
土曜日	9:00～12:00		
土曜日午前の診療は完全予約制です			

※基本的には予約制ですが、予約なしでの診察も可能です。
その際、お待ちいただく場合がありますのでご了承ください。
※伊林と宮坂の漢方外来のみ、完全予約制となっております。
事前に内科外来までお問い合わせください。

※精神科外来初診の場合は予約が必要です。
あらかじめお電話にて地域医療連携までお問い合わせください。
※外来担当医師は変更になる場合がありますので、
事前にお電話にてご確認ください。

マイナ保険証について

当院はオンライン資格確認を行なう体制を整備しており、オンラインにて診療情報を取得・活用することにより質の高い医療の提供に努めています。

[オンライン資格確認とは]
マイナンバーカードのICチップ又は健康保険証の記号番号等により、オンラインで資格情報の確認がリアルタイムでできる仕組みです。

[オンライン資格確認でできること]
マイナンバーカードが健康保険証として利用可能となります。
※初めてマイナンバーカードで医療機関を受診する場合は、初回登録が必要となります。

[マイナンバーカードを利用する主なメリットについて]
1 より良い医療を受けることができます。
お薬の情報や特定健診の結果の提供に同意すると、医師等からご自身の情報に基づいた総合的な診断や重複する投薬を回避した適切な処方を受けることができます。

2 窓口で限度額以上の支払いが不要になります。
高額な医療費が発生する場合でも、マイナンバーカードを保険証として使うことで、ご自身で高額な医療費を一時的に自己負担したり、役所で限度額適用認定証の書類申請手続きをする必要がなくなります。

3 マイナポータルで確定申告の医療費控除がカンタンにできます。
マイナポータルから保険医療を受けた記録が参照できるため、領収証を保管・提出する必要がなく、簡単に医療費控除申請の手続きができます。

4 就職・転職・引越後も健康保険証としてずっと使えます。
新しい健康保険証の発行を待たずに、医療機関・薬局で利用できます。
マイナンバーカードを保険証としてご利用いただくと、従来の保険証をご提示いただく場合よりも、医療費が軽減されます。

令和5年12月31日まで	初診時	再診時
マイナンバー保険証	2点	0点
健康保険証	6点	2点

健康診断・人間ドックについて
慈啓会病院では、各種健康診断を実施しております。
かけがえのない健康のために1年に1回は健康チェックを!!



あさひが丘

No.
80

地域社会に根差し 一人ひとりのこころの支えとなる 良質な医療を提供します

ごあいさつ ～認知症について～

精神科副院長

片 村 能 也
Yoshinari Katamura



慈啓会病院 精神科副院長の片村と申します。
平成12年より精神科医として慈啓会病院に勤務し、今年で23年目を迎えます。

当院の精神科には55床の認知症治療病棟があります。認知症治療病棟は精神症状が悪化した患者さんを治療する病棟です。

精神科での治療には、薬を用いる薬物療法と薬に頼らない非薬物療法とがあり、症状に応じて使い分けます。薬物療法は向精神薬や抗認知症薬などの薬剤を症状に応じて処方します。非薬物療法とは、薬を利用せずに治療的アプローチを行うことで、リハビリテーションや心理療法が挙げられます。認知症治療病棟には専任の作業療法士と臨床心理士が配置されており、生活機能を維持する訓練を行っております。

心理療法の代表としては回想法があります。コミュニケーションを介在させて、脳の活性化を目指す治療法で、昔の思い出を語る、昔話を聞くなどをするだけで、心を安定させる効果が期待できます。

他にも好きな歌を歌う、楽器を演奏するなどで心身をリラックスさせ、ストレス緩和を図る音楽療法や園芸療法、レクリエーション療法などがあります。

8月にはレクリエーション療法の一環として「七夕

祭り」を開催し、多くの患者様に参加していただき効果を上げました。また9月より「精神科作業療法」を開始いたします。

精神科作業療法とは「その人らしい生活を取り戻していただくための治療プログラム」で、ゲームや音楽鑑賞、ビデオ上映、季節ごとのお楽しみ会などを予定しております。効果としては精神症状の改善、生活の質の改善や維持、活動時間増加による生活リズムの改善、転倒リスクの軽減などが期待されます。

最後に、コロナ禍を経験して強く感じたことがあります。

新型コロナによって誰もが行動量と範囲が狭まったと思います。高齢者、特に認知症の患者さんは、入院、外来や施設を問わず、認知機能が低下した方が多かったです。行動量が減ると睡眠不足、食欲不振、生活習慣病の悪化につながります。裏を返せば、日常の人と人とのかわりや安定した行動が認知症患者さんにとってもいかに大切かということです。

認知症を発症し、病気のために状態が変わったとしても、日常、前向きな気持ちを持たせることが重要と思われま



夏の思い出

七夕祭り

看護部長

おくむら

奥村

みきこ

美貴子



認知症治療病棟（5階病棟）において、2023年8月8日（火）に『七夕まつり』を開催いたしました。

夏の思い出・夏祭り、七夕を感じていただけるよう、患者様には日々のリハビリプログラムの中で笹の葉に願いを書いた短冊、提灯などの飾りつけを作っていただきました。患者様と病棟職員、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、臨床心理士、事務職員が一体となって準備を進め、雰囲気を盛り上げていきました。

当日、職員はハッピーを羽織って屋台の売り子となり、ホットプレートでその場で焼いたフランクフルトや焼きそばづくり。患者様は、香ばしい匂いも楽しみ、普段の病棟食以上に季節感や思い出を呼び起こしたご様子で、「美味しい、美味しい」と食べてくださいました。

一番人気だったのは、やはりかき氷。イチゴ味とメロン味を用意しましたが、どちらも好評で2種類とも召し上がった方もいらっしゃいました。

ヨーヨー釣り、プロジェクターでの花火大会、みんなで唄を歌って、あっという間に時間がたちました。普段は集団を苦手として、活動に参加されない患者様も顔を出してくださり、40名の方が参加されました。日頃見ないような表情、素敵な笑顔、喜びやねざら

いの言葉に触れて、職員も励まされました。

患者様から「病院生活が長く、寂しい生活を過ごしておりました。このような行事は本当にうれしい。今日は楽しかったです。体調が悪かったのですが、参加できてよかった。またぜひお願いします。ありがとうございました。」とお言葉もいただき、私たち職員にとって感慨深い経験となりました。

このような季節行事、イベントは普段とは違った活動内容で、適度に負荷がかかるだけに、患者様の身体機能の回復、精神の安定、気分転換・リフレッシュに大きな効果が期待できます。これからも患者様と職員みんなが一緒に楽しく、笑顔になれるイベントを企画していきたいと思っております。



精神科作業療法について

リハビリテーション係長
しのだ ようこ
篠田 陽子

精神科作業療法では、レクリエーションや音楽療法、園芸活動等の中で、個人が大切にしていたこと、人生の歩みに寄り添い「その人らしい生活」を見据え、環境調整や支援を行っていきます。

精神科作業療法の効果として、精神症状の緩和、行動心理症状（ＢＰＳＤ）の軽減、不安・焦燥感の軽減、生活リズムの改善などさまざまな効果が期待できます。

実際、認知症の進行により関わり方が難しくなった方が、他患者様との交流やスタッフとの対話を通して、表情が和らぎ、会話が増えたことや穏やかに過ごせるようになった方もおられます。患者様から「屋上庭園のお花を見に行くことが日課なの」、「色々なプログラムがあるから時間があっという間だった」との言葉を頂き、日常的に活動することで生活リズムが整い、楽しい時間を過ごすことで、気分転換となり、食欲の回復や良眠に繋がった方もおられます。又、達成感や満足度の高い創作活動では、自信を取り戻し、精神的に安定をもたらした効果を実感しております。

精神科作業療法で「人となり」や「個人の素敵な瞬間」に触れ、時には大切なことを学ばせてもらいながら、その人らしい生活を見つけられる作業療法を提供できるよう努めています。



〔園芸活動の様子〕

職員紹介

地域医療連携室
かまだ ひろのり
鎌田 宏典

2023年7月より、地域医療連携室にて勤務しております鎌田宏典と申します。

6月までは、札幌市中央区第2地域包括支援センターで勤務をしておりまして、それ以前は、デイサービスや特別養護老人ホームなどで生活相談員として勤務をしていました。

これまで長く在宅における高齢者の生活についての相談や調整等に携わって参りました。元気で活動的な生活をしていく上でも、日々の健康づくりの大切さとともに、たとえ病気になったとしても安心して治療や療養に専念できる環境について病院へ期待する部分も多く持っていました。

これからも皆様が安心して生活や療養することができるよう地域における病院の役割を十分に果たして参りたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

心理室
うど あつみ
宇土 あつみ

はじめまして、7月から心理室で勤務しております宇土あつみと申します。以前は医療機器会社で製品適合性

試験のアシスタントを務めておりましたが、結婚を機に退職し、子育てをしながら大学院に通い、公認心理師の資格を取得しました。慈啓会病院の皆さまには、心理師になってから日が浅いにも関わらず、暖かく受け入れていただき、感謝にたえません。

現在は心理検査やカウンセリング、精神科作業療法に参加しております。心理検査では、患者さまの負担を最小限に抑えるように心がけ、また、できる限り達成感や楽しさを感じていただけるように取り組んでいます。カウンセリングや患者さまとの日々の関りの中では、「患者さまが真に求めていることは何か」という視点に注目し、お話をうかがっております。

今後とも患者さまとの対話やスタッフの皆さまとの連携を大切にしながら、日々精進してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。